

です。

また、同時に有効な資源の利用と環境の保全を促進し、豊かな国土の建設に資することです。

現下における米の過剰問題は構造的なものであり、米の減産対策は急を要する。米の生産調整と稲作転換は克服しなければならない多くの問題をかかえているが、しかし、米の生産調整を、単に米の減産と一時的な転作に終らせてはなりません。これを契機に、地域の実情に即し

た農業生産と望ましい生産構造への再編成にふみだすことが必要です。

国、県、市町村はもちろん、農業者はじめ関係各位がうって一丸となって、これら稲作転換対策の実施期間において、転作の総合的かつ計画的な推進をはかり、明日への発展の途を開くことこそ、今日与えられた最も大きな課題であると考えます。

## 昭和45年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤

### 試験成績概要

農林省園芸試験場 内 田 忠 雄

昭和45年度落葉果樹園関係の委託試験は除草剤7種類、生育調節剤3種類であり、これらについての成績検討会は昭和46年1月23日東京（都道府県会館）において、関係試験場担

当官の参集のもとで行なわれた。以下これらについての概要を述べよう。このほか、昨年中に成績検討が実施されたものもあるので、簡単に記載しよう。

昭和45年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績判定表

#### 除 草 剤

| 薬 剤 名                | 剤型 | 有効成分および含有率                                                                          | 判 定 | 内 容                                      | 委託会社名            |
|----------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------|-----|------------------------------------------|------------------|
| D B N<br>(カソロン粒6.7)  | 粒  | 2,6-ジクロロベンゾニトリル 6.7%                                                                | 実   | 8~10Kg<br>スポット処理用で実                      | タア化学工業<br>北興化学工業 |
| ターバシル<br>(シンバー)      | 水和 | 5-クロロ-ターシャリブチル<br>-6-メチルウラシル 80.0%                                                  | 継   | 200~300g/10a                             | デュボン             |
| ATA・DCNU<br>(アプレックス) | 水和 | ATA: 3-アミノ-1,2,4-<br>トリアゾール 37.5%<br>DCNU: 3-(3,4-ジクロロ<br>フェニル)-1,1ジメ<br>チル尿素 37.5% | 実・継 | 200g/10a(ウメ)で実<br>300g/10a(ウメ<br>・クリ)で継  | 丸和物産             |
| リニュロン<br>(アフアロン)     | 水和 | 3-(3,4-ジクロロフェニル)<br>-1-メトキシ-1-メチルウレア<br>50.0%                                       | 実・継 | 300~400g/10a(ブドウ<br>成木)で実<br># (ブドウ若木)で継 | ヘキスト・<br>ジャパン    |

| 薬 剤 名                 | 剤型 | 有効成分および含有率                                         | 判 定        | 内 容                        | 委託会社名   |
|-----------------------|----|----------------------------------------------------|------------|----------------------------|---------|
| ア メ ト リ ン<br>(ゲザボックス) | 乳  | 2-メチルチオ-4-エチルア<br>ミノ-6-イソプロピルアミノ<br>-S-トリアジン 25.0% | 中 止        | 薬害発生のため                    | 日 本 化 薬 |
| S S H - 3 1           | 液  | A剤(非公開) 40.0%<br>B剤(非公開) 40.0%                     | 継 ?<br>継 ? | 全般的に殺草力が弱い                 | 塩野 義製薬  |
| M & B 9 0 5 7         | 液  | メチル-4-アミノベンゼンス<br>ルフォニルカーバメイト 40.0%                | 実・継        | 1250cc以上/10a<br>(ブドウ・カキ)で実 | 塩野 義製薬  |

#### 生育調節剤

| 薬 剤 名                | 剤型 | 有効成分および含有率                         | 判 定 | 内 容                                           | 委託会社名               |
|----------------------|----|------------------------------------|-----|-----------------------------------------------|---------------------|
| B - 9 9 5<br>(B-ナイン) | 水溶 | N-ジメチルアミノサクシナミ<br>ックアシッド 80.0%     | 実   | 1000~2000ppm(モモ)<br>400~800倍(オウトウ)            | 日 本 曹 達             |
| ジ ベ レ リ ン            | 粉  | ジベレリンA <sub>3</sub> 3.1%           | 実・継 | 25~50ppm(カキ平核<br>無)で実。高濃度で継続                  | 協和醸酵工業              |
| N A A<br>(ヒオモン)      | 水和 | α-ナフタリン酢酸ナトリウム<br>22.0%            | 実・継 | 5~10ppm(カキ平核無)<br>で実。25ppm(カキ富有)<br>で実。高濃度で継続 | 兼 商                 |
| エ ス レ ル              | 液  | 2-クロロエチルフォスフォニ<br>ックアシッド 48.0%     | 継   | 裂果などの薬害のため継                                   | 2,4-D<br>協議会        |
| ベンジルアデニン<br>(B A 液)  | 液  | N <sup>6</sup> -ベンジルアミノプリン<br>3.0% | 継   | 試験成績集積不足で継                                    | クミアイ<br>化学工業<br>味の素 |

## I 除 草 剤

1. D B N(カソロン粒剤): 継  
ブドウ(5場所), モモ(5場所), ナシ(4場所)で試験を実施した。まず, ブドウでは春処理, 夏処理とも効果の発現はおそいが, 殺草力が強く, 特にヨモギ, タデ, ギシギシなどの宿根草に効果が高い。この傾向はモモ, ナシともほぼ同じような傾向であった。

生育抑制期間は50~80日位でかなり長い

傾向がある。10a当たりの使用量は8~10Kg程度が適当である。6Kgでは山形置賜分場での試験しかないが, やや力不足の感がある。

草種については禾本科に弱く, ススキ, ヒエ, メヒシバなどに効果が劣っている。

薬害の点については去年は一部に薬害の発生をみせていたので, 継続試験となったのであるが, 本年はどここの試験場でも実用濃度の範囲内では薬害をみせていない。

したがって, 本薬剤はヨモギ, タデ, ヤブガラシなど宿根草に効果が高いことから果樹園の

スポット処理用として実用化の判定を下した。

## 2. ターバシル(シンバー水和剤): 継

昨年は香川府中分場での試験で薬害の発生をみせたので、本年も薬害を重点的に検討した。

試験は香川農試で夏草対象に、山梨果試でも夏草で、福島園試と山形園試で春草、夏草対象に試験した。

香川農試の試験によると草種の選択性が少なく、殺草力も強く、300gではとくに強く抑草期間も70日位であり、山梨でも200g、300gともに実用上適とみなしている。

福島でも春草の処理では安定した殺草力を示しているが、処理後50日目頃から新梢の中ほどから先端にかけ薬害の発生をみせており、特に300gでははなはだしい。夏草では薬害はみられない。山梨の試験でも6月下旬処理のところの一部下葉にクロロシスがみられたとしている。香川では薬害はみられていない。

以上のことから本薬剤はモモの成木で200gなら実用可能として若木の300g、成木300gで再検討ということにした。

## 3. ATA・DCMU(アプレックス水和剤): 継

ウメとクリを対象に試験が行なわれ、前者は群馬農試と福島園試で、後者は神奈川園試と愛媛果試で何れも夏草に対する効果をみた。

ウメでの群馬の試験は200gではやゝ力不足の感があるが、400g~600gになると効果の発現も早く殺草力も強く、抑草期間も50~60日程度である。

徳島でもやはり200gでは効果は充分でなく、400gになるとグラモキシソンの倍以上の抑草期間がある。

薬害は群馬ではみとめられないが、徳島では

400gになると葉縁に黄斑の軽微な薬害をみている。

一方、クリでは神奈川園試の銀寄11年生の夏草試験で200gでは効果が不充分だが、400gなら40日程度の抑草期間がある。愛媛の試験も大体同様である。薬害は600gの処理で落穂の薬害をみせている。

以上のことから、クリに対してはDCMUの薬害の点を考慮して本薬剤はウメ200gで実用化とし、300g以上ではウメ、クリとも継続とした。

## 4. リュニロン(アファロン水和剤): 継

本年はブドウを対象に岡山農試(春、夏)山梨果試(夏)、山形園試(春、夏)の3場所で10a当たり200~400gを処理した試験を行なった。

岡山の試験は、春、夏ともに効果が低く、山梨では300~400gなら効果が高く、実用可能とみなしている。

また、山形園試でのクローバー草生園では200g、300gで刈取代用として400gなら永久除草として実用可能とみなしている。

薬害は山梨果試で1年生ブドウ園で300gで僅かにみられた以外どこでもみとめられていない。岡山の試験では草種によっては効果の発現にムラがみられる。

以上のことからブドウ成木では薬害なく使用し得ることから、300~400gで実用上適とみなし、若木では継続とした。

## 5. アメトリン(ケザパックス乳剤): 継

ブドウは岡山農試(春、夏)と山梨果試(夏)で、モモは岡山農試(春)、福島園試(春、夏)ナンは鳥取果試(春、夏)、神奈川園試(夏)、

カキは愛知総合農試（夏）、岐阜農試（春、夏）でそれぞれ試験した。

ブドウでは春草よりも夏草に効果が高いが、ヨモギには効果が低い（岡山）。山梨では1.5ℓで抑草効果が充分あるとみなしている。

モモでも草種に対する効果はブドウと同様であるが、福島春草の試験で、1.5ℓでも薬害をみせている。

ナシでは1年生苗木の試験は何れの品種も薬害をみせており、特にひどいのは甚だしい落葉をきたした。

また、カキでも若木の試験では土壌処理による軽度の薬害をみせている。

本薬剤は降雨に強く、メヒシバによく効き、みかんには薬害がないことからみかん園では広く使用されているが、落葉果樹では何れも薬害の発生がみられることから、中止と判定した。

## 6. SSH-31: 継

本年度はブドウでは福島園試、岡山農試、並びに山梨果試で春草、夏草で、ナシでは福島園試、鳥取果試で春草、夏草で試験した。

ブドウでの試験成績を概観すると、草種によって効果が劣ったり、抑草期間も短いことから実用上は不適とされているところが多い。

ナシでの試験では春草には効果が低く、夏草ならばブドウ園の試験よりも効果は高い（福島）。また、鳥取果試ではスイバ、ギンギンのスポット処理用として適している以外は、何等効果は期待できないとしている。

薬害はブドウ、ナシなどにも見られないが、全般的にみて殺草力が弱く、またA剤、B剤と混合は好ましくないことから判定は継続？とした。

## 7. M&B 9057 液剤: 継

ブドウは大阪府農林センター、山梨果試で夏草、福島園試で夏草で試験し、カキは愛知総合農試で夏草、福島園試では春草、夏草でそれぞれ試験した。

効果の発現が非常に遅いが、1250α以上なら抑草期間も60日以上あって、刈取代用として適とみなしている。たゞ、福島だけはカヤツリグサに特に弱いことや殺草力は強くないことから実用上は否定している。

カキでも大体同じような傾向がうかがわれ、愛知の試験では10α当たり1250α以上では殺草力も強く、抑草期間も60日以上となっている。福島では春草では効果充分でないが、夏草では1250α以上なら抑草期間も60日以上あるとみとめている。

ブドウ、カキ共に薬害の発生はみとめられない。草種についてはなお、検討の余地があるが、1250α以上なら実用可能と考えられるので判定は実用・継続とした。

## II 生育調節剤

### 1. B-995: 新

旧製品は水に多少溶解しにくいとのことから、水に溶け易い新製品をモモ、オウトウの熟期促進、巨峰の花振り防止に旧製品と変わらない効果をもたらすか否かについて試験した。

モモでは山形園試、福島園試、長野園試、山梨果試ならびに京都府山城支場の5場所で満開後40日から50にかけて1,000ppm～2,000ppmの処理で4,5日若しくは5,6日熟期促進がみとめられ、旧製品と効果は変わりなかった。

アウトウでも新製品の400倍, 800倍で山形園試で試験しているが, 満開後2週間の処理で何れも5日程度熟期促進をみとめている。

ブドウ巨峰の花振り防止の試験でも旧製品と効果には全く変わりはない。

以上のことから, Bナインの新製品は実用上差支えないので, 実用とみとめた。

## 2. ジベレリンのカキの軟化防止

カキ果実の日持ちをよくするため, ジベレリン処理による試験が, 新潟農試佐度支場, 山形農試砂丘分場で平核無を対象に, 愛知総合農試で富有を対象に, 和歌山果試紀北分場では平核無, 富有両品種を対象としてそれぞれ試験した。

平核無では収穫前1週間前後にジベレリン25~50ppmを散布することにより脱渋後の日持ちがよくなることがはっきりしたので, この点は実用とみとめた。

これより濃度が高くなると日持ちはよくなるが, 果実に汚染が生じたり, 脱渋がわるくなったりすることがみられたので, 高濃度における試験は継続とした。

なお, 新潟佐度支場ではエスレルとの併用試験を行ない, エスレルの濃度の低いほどジベレリンの効果が高いことをみとめている。

富有では, 8分着色時にジベレリンの25~50ppmを処理することによって収穫後の日持ちがよくなり, 愛知の試験では収穫後5週間になると70%の果実が軟化したが, ジベレリン処理区は, なお商品性のある硬度を維持していた。なお, 神奈川では50ppmの処理で実用化していることも報ぜられた。

以上のことから富有では25~50ppmで実用化とし, 使用に当っては試験場の指導を仰ぐことを付した。

## 3. カキのNAAによる摘果: 継

カキの摘果労力軽減のため, 摘果剤の利用試験が行なわれ, NAAがミカンと共にカキにも充分効果のあがることがわかり, これの実用化のための試験が, 新潟農試佐度分場ほか7場所の試験場において, 平核無と富有において実施された。

### (イ) 平核無の試験

昨年までの試験で散布濃度は5ppmがよいことがはっきりしたので, 5ppmを中心にし散布時期も満開後5~10日とした試験が多く, その結果, 濃度ではやはり5ppmがよく10ppmでは多少効果の強すぎるところもみられた。たゞ佐度支場での実用化試験では, 10ppmの方が効果が高い。

葉害はみられないが, 一部の試験では果実の肥大が損なわれたり, またボルドー液の前後散布は効果をおとすことが指摘された。

以上のことから平核無に対しては5~10ppmを満開後5~10日目に散布することで実用とし, 果実の肥大の調査については継続して行なう必要があるとした。

### (ロ) 富有の試験

富有の場合は授粉した場合と無授粉の場合とに分け, 夫々満開後10日, 30日目にNAAの25ppm, 50ppmの2濃度で連続試験を実施した。

その結果, 授粉を前提として25ppm満開10日後の散布が適正摘果ができることがおゝむねははっきりしたので, この点は実用化した。

たゞし, 生理落果との関係もあって, 年により, 樹勢により効果にむらがあるとも指摘されたので, さらに濃度と散布時期について継続試験を行なうこととした。これには果実の肥大の状況, 前年度の結果量などとの関係も追究する

こととした。

平核無と同様N A Aの散布に当たっては、ポ  
ルドー液との近接散布をさけることも条件とし  
て加えられた。

#### 4. エスレル：継

これについては、45年9月に大阪でナシに  
ついて行なわれたが、試験成績が西日本の日本  
海側のところのみに偏していたため、熟期促進  
効果はみとめられたが、裂果などの薬害もみら

れることから、もう一年ナシ主産地を含めた連  
絡試験を実施することとした。

#### 5. ベンジルアデニン（B A液）：継

この成績検討も昨今行なわれたが、ブドウの  
ジベレリン処理果の花振り防止と着色障害防止  
のために行なわれたが、試験成績の集積がたり  
ないことなどからさらに試験を継続することと  
した。

### 農 林 統 計 編

昭和46年3月20日、農林統計調査部より公表された、昭和45年産野菜の作付面積と収穫量  
は、下表のとおりである。

昭和45年産野菜の作付面積と収穫量

| 作 物 名   | 範 囲 | 作付面積   | 収 穫 量   | 前 年 対 比 |     |       |
|---------|-----|--------|---------|---------|-----|-------|
|         |     |        |         | 作付面積    | 作 柄 | 収 穫 量 |
|         |     | ha     | t       | %       | %   | %     |
| きゅうり    | 全 国 | 31,500 | 961,800 | 99      | 101 | 101   |
| とまと     | "   | 19,300 | 789,500 | 99      | 101 | 100   |
| なす      | "   | 27,700 | 721,500 | 103     | 102 | 106   |
| ピーマン    | "   | 4,630  | 126,900 | 121     | 101 | 122   |
| ほうれんそう  | "   | 24,000 | 363,200 | 101     | 99  | 100   |
| ごぼう     | "   | 18,200 | 294,800 | 101     | 99  | 101   |
| さといも    | "   | 39,000 | 542,100 | 105     | 99  | 103   |
| いちご     | "   | 12,800 | 133,000 | 102     | 101 | 104   |
| 秋きゅうり   | 主産県 | 4,830  | 146,100 | 97      | 100 | 97    |
| 北海道たまねぎ | "   | 4,060  | 178,800 | 104     | 118 | 122   |
| 夏秋レタス   | "   | 2,530  | 54,000  | 137     | 91  | 125   |
| 秋にんじん   | "   | 3,190  | 74,100  | 106     | 113 | 120   |
| メロン     | "   | 788    | 22,000  | 114     | 101 | 116   |
| セルリー    | "   | 408    | 18,600  | 117     | 105 | 122   |
| パセリー    | "   | 314    | 6,330   | 95      | 94  | 90    |
| はなやさい   | "   | 1,490  | 31,000  | 116     | 97  | 113   |
| 秋植えびいしょ | "   | 7,920  | 119,800 | 100     | 122 | 122   |
| かぶ      | "   | 7,870  | 195,000 | 99      | 102 | 101   |
| れんこん    | "   | 4,650  | 63,200  | 110     | 83  | 91    |

注； 季節区分 秋きゅうり……9・10月に収穫最盛期にあるもの。

夏秋レタス……6～10月 "

秋にんじん……8～10月 "